

Ⅲ

社会教育の 現状と課題、 今後の展開

基本方針 1. 生きる力を育む学びの充実

- 重点目標 1-1 未来を担う人財の育成
- 重点目標 1-2 生涯を通じた学びと社会参加活動の推進
- 重点目標 1-3 社会教育推進のための基盤整備

基本方針 2. 文化芸術資源を活用したまちづくりの推進

- 重点目標 2-1 個性あふれる文化芸術の創造と継承
- 重点目標 2-2 将棋によるまちづくりの推進

基本方針 3. 次代へ伝える文化財の保存・活用

- 重点目標 3-1 文化財の保護と活用
- 重点目標 3-2 郷土芸能の保存と継承

基本方針 1 生きる力を育む学びの充実

重点目標 1-1 未来を担う人財の育成

< 現状と課題 >

青少年育成町民会議

生徒指導連絡協議会や連合PTA等と連携を図り、危険箇所への看板設置や町内小学校付近の横断歩道手旗設置、ショッピングセンターでの夏・冬巡回指導を行っています。また、総会および町民大会での講演会では、青少年に関わる身近な課題や体験談等を題材にした内容で、参加者から好評を得ています。青少年健全育成に関わる各種団体と重複する活動や活動に対する温度差があることから、関係機関等と密接な連携を図りながら事業を調整し、効果的な活動を展開する必要があります。

連合PTA

町内の小中学校各単位のPTAが連携して、教育の振興を図るために活動しています。研究大会やレクリエーション大会を行い、コミュニケーションを深めています。児童生徒数の減少に伴い、会費収入や保護者も減っており、これまで通りの活動を維持することが難しくなっています。

子ども会育成連合会

役員が中心となり活動しているものの、少子化やスポーツ少年団活動、習い事など子ども達を取り巻く環境の変化・多様化により、会員の減少や単位会の廃止・休止が進んでおり、子ども会は過渡期を迎えています。今後は、学校・家庭・地域が連携して子どもの成長を支える仕組みづくりを考える必要があります。

成人式

人生の区切りの式典として、成人としての自覚と責任を持つ（考える）機会を提供しています。祝賀会では、百石高等学校食物調理科による料理提供など多くの関係者やボランティアから協力を得て式典を運営し、参加者から喜ばれています。令和4年4月1日より、成人年齢が18歳に引き下げられることから、国の方針や他自治体の動向を注視しながら、成人式の日程や内容等について検討をしていく必要があります。

あいさつ運動連絡協議会

のぼり旗の加除・設置やカレンダーの作成・配布、アンケート調査などを実施し、あいさつ運動を推進してきましたが、アンケートの結果などからあいさつが浸透してきたことや協議会自体が形骸化しているため、協議会の開催を休止し、のぼり旗の設置だけを行っています。

放課後子ども教室推進事業

平成19年度から実施しているが、町全体の放課後児童対策を考えると、放課後児童健全育成事業（厚生労働省管轄）の地域格差をはじめ、放課後子ども教室の現場責任者不在や指導員の処遇の不安定、国庫補助額の減額など、教室運営上の課題が山積しています。今後は、甲洋小学校区の放課後児童クラブ化または放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型を検討する必要があります。

おいらせの学びカレッジ子ども講座

子ども講座「おいらせ子どもチャレンジ塾」では、講座の内容によって参加者が少なく中止している講座があるが、子どもへの多様な体験活動の機会を提供することは重要なことであるので、内容をはじめ、募集方法などの工夫・改善を図り、関係団体と連携しながら継続していく必要があります。

子どもフェスティバル

町内の幼稚園・こども園・学校・サークル等の子どもが参加する団体が一堂に会して、日頃の練習の成果を発表する場として開催しています。参加した児童・生徒や保護者にとって刺激となり、文化・教育活動の活性化に繋がっています。

乳幼児英会話教室巡回指導

政策推進課で配置している町国際交流員を保育園等に派遣し、教室を実施してきました。今後もさらなるグローバル化に向け、英語に親しむ機会を提供する必要があります。

図書館事業

平成 30 年に「おいらせ町子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもに絵本の体験と絵本をプレゼントする「ブックスタート事業」を開始しました。また、幼児・児童を対象にした紙芝居や絵本の読み聞かせを通して、読書への興味を喚起し、乳児を対象にした読み聞かせや「大人のためのおはなし会」により、母親等に対しても読み聞かせの大切さを理解してもらえるよう努めてきました。

< 重点施策（方向性） >

①青少年の健全育成

未来を担う青少年の健全育成のため、保護者や関係機関・団体と連携して各種活動を展開します。

②青少年の体験活動の充実

未来を担う青少年が、郷土への誇りや愛着をもち、将来のおいらせ町を支える人財となってもらうために、住民と行政が連携し地域全体で多様な体験活動機会の充実を図ります。

③子どもの読書活動の充実

おいらせ町子ども読書活動推進計画に基づき、図書館を中心に家庭・学校・関係団体が連携を強化し、子どもの読書に親しむ機会や読書環境の整備・充実など、子どもの読書活動を推進します。

④家庭教育支援の充実

教育の出発点である家庭の教育力を高めるため、学校や家庭教育支援チームなどと連携し、地域ぐるみの家庭教育支援の充実を図ります。

⑤学校・家庭・地域が連携し子どもを育む仕組みづくり

学校・家庭・地域が連携し地域全体で子どもの学びや成長を支え、地域を創生する仕組み「地域学校協働活動」を検討します。

重点施策	具体的事業	これまでの評価				今後の展開
		27	28	29	30	R2～R6
①青少年の健全育成	青少年育成町民会議	B	B	A	A	③見直し⇒再構築・統合（関係団体との連携推進・効率化）
	青少年問題協議会	B	C	—	—	②継続実施
	連合PTA	B	A	B	A	②継続実施
	子ども会育成連合会	B	B	A	A	③見直し⇒再構築・統合（地域との連携による組織維持）
	成人式	B	A	A	A	②継続実施
	あいさつ運動	B	B	A	B	③見直し⇒連絡協議会廃止、取組縮小

②青少年の体験活動の充実	放課後子ども教室	B	B	A	A	③見直し⇒児童クラブ化の検討
	学びカレッジ子ども講座	A	B	A	D	③見直し⇒再構築・統合
	子どもフェスティバル	B	A	A	A	②継続実施
	乳幼児英会話教室巡回指導	B	B	A	B	④廃止⇒自主事業の支援
③子どもの読書活動の充実	子どもの読書活動の推進（新規）	—	—	—	—	②継続実施
	ブックスタート（新規）	—	—	—	—	②継続実施
	図書館事業	B	—	B	A	③見直し⇒指定管理者導入
④家庭教育支援の充実	乳幼児家庭教育学級	B	B	B	B	②継続実施
	小中学校家庭教育学級	B	B	A	B	②継続実施
	家庭教育支援チームとの連携（新規）	—	—	—	—	⑤新規実施
⑤学校・家庭・地域が連携し子どもを育む仕組みづくり	地域学校協働活動の検討（新規）	—	—	—	—	⑤新規実施

※展開：①拡大実施 ②継続実施 ③見直し（再構築・統合） ④廃止（移管含む） ⑤新規実施

基本方針 1 生きる力を育む学びの充実

重点目標 1-2 生涯を通じた学びと社会参加活動の推進

< 現状と課題 >

おいらせの学びカレッジ一般講座

成人期の学習機会の目玉事業として、毎年4人程度の講師を招き開催しています。また、受益者負担の考えから有料講座を1回、その他、地元（県内）講師の人材活用、関係課と連携した併催型での運営など、限られた予算の中で幅広く事業を展開しています。著名人による講演は住民からの関心を得られやすく、行政が学んでもらいたいテーマを発信できる機会となっています。今後は予算と受講者アンケートや関係者からの要望等を踏まえて回数や内容を検討することとしています。

おいらせの学びカレッジ専門講座（公民館事業）

教養・地域・趣味の各分野のメニューから自分に合った学びを選択し、人生をより豊かにすることを目的に開催しています。参加者は年間500人を超えており、特に料理や物づくりの講座が好評となっています。今後もアンケート等を参考にしながら、幅広い年齢層を対象に、多様な住民ニーズに対応する必要があります。

おいらせの学びカレッジ特別講座

平成29年度から「未来の地域づくり講座」として、高崎経済大学櫻井教授を講師に迎え「これからの地域づくりへのヒント」をテーマに、小学校区単位でイメージした住民主体の地域づくりを学びながら地域のファシリテーター養成に取り組んできました。今後も関係課と連携しながら地域課題を解決するための主体的な学びや対話の場を提供し、地域づくりを進めていく必要があります。

図書館事業

平成30年に「おいらせ町子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもに絵本の体験と絵本をプレゼントする「ブックスタート事業」を開始しました。また、幼児・児童を対象にした紙芝居や絵本の読み聞かせを通して、読書への興味を喚起し、乳児を対象にした読み聞かせや「大人のためのおはなし会」により、母親等に対しても読み聞かせの大切さを理解してもらえるよう努めてきました。

出前講座

町内会を対象とした開催が多く、高齢者の健康づくりや福祉に関するもの、体操・呼吸法・ストレッチ講習会、おいらせ音頭の振付講座などが人気となっています。また、小・中学校の体験学習や施設見学などでも活用されており、年間50回以上の講座が行われています。しかし、年に数回実施される人気の講座がある一方で、数年に1度の講座があることや、同じ団体が同じ講座を申込み等、一部に偏りもみられるので、町民の学習ニーズを把握しながら、これまで以上に多くの町民に主体的な学びと社会参加活動を推進していく必要があります。

高齢者教室

社会福祉協議会が主催する「ほがらか教室」の開講式の際に高齢者教室を開催しています。社会教育事業の一環として、文化、芸術活動、趣味、娯楽などを通して生きがいを見出し、自らを豊かにしてほしいという思いで開催しています。近年は、特殊サギ防止を啓発する講師を招き、分かりやすい内容だと好評を得ています。

生涯学習人材バンク

人材バンク登録者は、随時募集をしており出前講座等で積極的に活用されています。今後は、まだ登録されていない分野を中心に情報収集し、新たな人材発掘に努める必要があります。

生涯学習フェスティバル

「町民の融和」を目標に、生涯学習活動の情報提供や各種団体の活動紹介、活動者同士の交流により、活動の活性化やネットワーク化が図られています。来場者数は毎年5～6千人となっており、関係者のほか地域住民へも浸透し、1年間の生涯学習活動の集大成として定着してきています。また、日頃の文化・芸術・学習活動を披露する場にとどまらず、多くの町民の主体的な社会参加活動の場として、準備から片づけまでを参加者が行っており、理想的な事業運営となっています。今後も、不参加団体へ積極的に呼びかけ、子どもからお年寄りまで町民一人ひとりが輝き、元気で明るいおいらせ町へつながる取り組みとして展開していく必要があります。

北公民館文化祭

生涯学習フェスティバルと時期や参加団体がほとんど変わらないため、一般来場者は少ない状況となっています。また、実行委員会を組織し、参加団体が自主的に運営・開催することとしているが、団体により必要性や自主的な運営に対する意識に温度差がみられるため、実行委員会の在り方や自主的な運営について検討する必要があります。

< 重点施策（方向性） >

①一人ひとりの主体的な学習機会の充実

地域の様々な課題を解決するため、関係団体と連携したおいらせの学びカレッジ等により、一人ひとりの主体的な学びや対話の場を提供します。

②学びの成果を生かした社会参加活動の推進

町民一人ひとりが生きがいをもち、いきいきと生活していくために、出前講座の講師や生涯学習フェスティバルへの主体的な参加など、学びの成果を生かした社会参加活動を推進します。

重点施策	具体的事業	これまでの評価				今後の展開
		27	28	29	30	R2～R6
①一人ひとりの主体的な学習機会の充実	学びカレッジ一般講座	C	B	B	A	③見直し⇒縮小
	学びカレッジ専門講座	C	B	A	A	②継続実施
	学びカレッジ特別講座	B	A	A	A	④廃止⇒まちづくり部署へ移管
	図書館事業	B	—	B	A	③見直し⇒指定管理者導入
	出前講座	B	B	A	A	②継続実施
	生涯学習情報提供	C	B	—	A	②継続実施
	高齢者教室(ほがらか教室との連携)	B	B	B	A	③見直し⇒社会福祉協議会へ移管を協議
	新規グループスタートアップ支援事業	C	B	C	B	③見直し⇒制度内容の精査
②学びの成果を生かした社会参加活動の推進	生涯学習人材バンク	B	B	B	B	②継続実施
	出前講座講師の活用(新規)	—	—	—	—	②継続実施
	生涯学習フェスティバル	B	A	A	A	②継続実施
	北公民館文化祭の支援	—	—	—	A	③見直し⇒再構築・統合(生涯学習フェスティバルへ統合)

※展開：①拡大実施 ②継続実施 ③見直し(再構築・統合) ④廃止(移管含む) ⑤新規実施

基本方針 1 生きる力を育む学びの充実

重点目標 1－3 社会教育推進のための基盤整備

< 現状と課題 >

各種団体との連携強化

それぞれの団体が会議はもちろんのこと、各種事業や研修に積極的に取り組み、委員としての自己研鑽による資質向上に努め、委員活動の充実が図られています。また、審議会では事業評価を行い、次年度以降の事業実施に反映させることとしています。

あいさつ運動連絡協議会

のぼり旗の加除・設置やカレンダーの作成・配布、アンケート調査などを実施し、あいさつ運動を推進してきましたが、アンケートの結果などからあいさつが浸透してきたことや協議会自体が形骸化しているため、協議会の開催を休止し、活動ものぼり旗の設置のみとしています。

社会教育団体等への活動支援

各社会教育団体に対しては、それぞれの団体が自主的な活動・運営が図られるように補助金による支援や、職員による事務等の活動支援を行っており、各団体ともに創意工夫しながら活動に取り組んでいます。

公民館機能の充実

町内にある3公民館では、文化協会や社会教育関係団体などのサークル活動が盛んに行われ、活動の拠点として利用されているので、なくてはならない施設となっています。

中央公民館は施設の老朽化が著しく、利用者の安全確保のためにも早期の大規模改修や建て替えが必要となっています。また、東公民館と北公民館については、計画的なメンテナンスにより、施設を維持・長寿命化していく必要があります。

図書館機能の充実

図書館では、専門的職員（司書）の増員や設備・図書の実充に努めてきましたが、利用者へのサービスを維持向上するため、今後は民間活力やノウハウを活用する指定管理者制度に移行することとしています。

みなくる館の活用・町民交流センター（小ホール）の活用

みなくる館や町民交流センター小ホールは、目的や規模に合わせて各種事業で活用されています。

大山将棋記念館の運営

平成30年度から全館入場無料化したこともあり、来館者数は年々増加しています。記念館は、将棋教室や将棋大会でも使用されており、毎日将棋を指す常連客も増えています。しかし、将棋に特化した全国でも希少な施設であるにも関わらず、全国的な知名度は高いとは言えない状況であるため、もっと積極的に様々な方法でPRしていく必要があります。

こういった課題を解決しつつ記念館の運営を維持するため、今後は民間活力やノウハウを活用する指定管理者制度に移行することとしています。

民具ふれあい館の運営

生涯学習フェスティバルでの昔話体験会場や町内小学校課外授業として利用されています。今後も、建物を適切に維持管理しながら、多くの児童・生徒に利用・活用してもらえるように周知する必要があります。

子ども会育成連合会

役員が中心となり活動しているものの、少子化やスポーツ少年団活動、習い事など子ども達を取り巻く環境の変化・多様化により、会員の減少や単位会の廃止・休止が進んでおり、子ども会は過渡期を迎えています。今後は、学校・家庭・地域が連携して子どもの成長を支える仕組みづくりを考える必要があります。

青年団

一般の若者がなかなか集まらない中で、役場の若手職員が中心となりボランティア活動や各種事業等を展開しているものの、今後の青年団そのもののあり方が課題となっています。

< 重点施策（方向性） >

①社会教育推進体制の充実

主体的な学びの機会を充実するため、社会教育推進組織の機能の強化を図るとともに、関係団体との連携強化を図ります。

②社会教育施設機能の充実と活用の促進

町民の学習活動の場である公民館、みなくる館、図書館、大山将棋記念館の連携強化と、効率的で効果的な管理運営を図るため、必要に応じた改修等を実施しながら、民間への業務委託や指定管理者制度の導入など、民間活力の活用を検討します。

③社会教育関係職員の資質の向上

町民の主体的な学びを支援する役割である職員や地域活動実践者等への各種研修機会を充実し、資質の向上を図ります。

④社会教育関係団体等の活動支援

社会教育関係団体やボランティアの自主・自立した活動を推進し、そのための活動を支援します。

重点施策	具体的事業	これまでの評価				今後の展開
		27	28	29	30	R2～R6
①社会教育推進体制の充実	社会教育委員会議	B	A	A	A	②継続実施
	上北地方社会教育連絡協議会	B	C	A	A	②継続実施
	公民館運営審議会	—	—	A	A	②継続実施
	図書館協議会	—	—	A	A	②継続実施
	あいさつ運動	B	B	A	B	③見直し⇒連絡協議会廃止、取り組み縮小
②社会教育施設機能の充実と活用の促進	公民館の管理運営（新規）	B	B	A	A	②継続実施
	図書館の管理運営（新規）	B	B	A	A	③見直し⇒指定管理者導入
	みなくる館の管理運営（新規）	—	B	A	A	③見直し⇒指定管理者導入

	大山将棋記念館の管理運営	B	B	A	A	③見直し⇒指定管理者導入
	創作の家の管理運営	B	B	A	A	②継続実施
	町民交流センター（小ホール）の活用	B	B	A	A	②継続実施
	民具ふれあい館の管理運営	B	B	A	C	②継続実施
	民間活力の活用の検討（新規）	—	—	—	—	⑤新規実施
③社会教育関係職員の資質の向上	各種研修等への派遣費補助	B	—	—	—	②継続実施
	職員の専門研修会への派遣	B	—	—	—	②継続実施
④社会教育関係団体等の活動支援	子ども会育成連合会	B	B	A	A	③見直し⇒再構築・統合（地域との連携による組織維持）
	青年団	B	B	A	A	②継続実施
	連合婦人会	B	B	A	A	②継続実施
	女性教室開設補助	B	B	—	—	④廃止

※展開：①拡大実施 ②継続実施 ③見直し（再構築・統合） ④廃止（移管含む） ⑤新規実施

基本方針 2 文化芸術資源を活用したまちづくりの推進

重点目標 2-1 個性あふれる文化芸術の創造と継承

< 現状と課題 >

芸術文化鑑賞事業

子どもに夢や目標を持ってもらい豊かな情操教育に繋げるため、小学校低学年、高学年、中学校と各年齢層に分けて普段直接見聞する機会の少ない優れた音楽や演劇、伝統芸能の鑑賞事業を実施しています。また、鑑賞会は一般開放を行っているが、参加者が少ないので、周知方法や会場づくり等を工夫する必要があります。

新年かきぞめ大会・おいらせ歴史と自然かるた大会

新年の文化イベントとして定着しており、文化・教育活動の活性化に繋がっています。今後は、書道団体や歴史と自然を愛する会による運営を検討することとしています。

文化協会

文化団体相互の交流や文化の振興を図るため、多くの団体が加盟し、多くの事業を実施しています。これまでは町が事務局を担ってきましたが、町職員の減少や職務内容の多様化・複雑化などにより、これまで同様の対応が難しくなっていることから、自主・自立した運営をするための支援や働きかけを検討する必要があります。

文化に関する表彰式

町民の模範となるような文化活動を顕彰し、活動に対するやりがいや励み、新たな挑戦へのきっかけづくりになるよう実施してきており、ほぼ受賞者全員が表彰式へ出席しています。今後も公平・公正に表彰するため情報収集と厳正な審査に努める必要があります。

伝統文化親子教室（国庫補助事業）

当町の特徴ある伝統文化継承および将棋によるまちづくりを推進するため、国補助事業を活用し、児童センター等でのプロ棋士による指導対局や備品の整備を進めてきました。今後も関係団体等へ補助制度を周知することとしています。

おいらせ音頭

町民の一体感を醸成し郷土愛を深めるため、平成24年度に「おいらせ音頭」を制作し、町内の祭りやイベントの際に披露しています。今後も町民の一体感を醸成するため、さらなる普及を促進する必要があります。

< 重点施策（方向性） >

①文化活動・鑑賞機会の充実

芸術鑑賞事業等により、子どもたちが優れた文化芸術に触れる機会を通じ、豊かな創造力を育みます。また、より多くの町民へおいらせ音頭を普及するなど、郷土愛を深めるための文化活動の充実に努めます。

②文化団体の支援と指導者の育成

個性あふれる文化芸術の創造と継承のため、文化芸術活動を行う団体の自主・自立した活動への支援と、文化に関する表彰などによる人財育成に努めます。

重点施策	具体的事業	これまでの評価				今後の展開
		27	28	29	30	R2～6
①文化活動・鑑賞機会の充実	芸術文化鑑賞事業	B	A	A	A	②継続実施
	おいらせ音頭の普及促進（新規）	—	—	—	—	②継続実施
	かきぞめ大会・かるた大会（新規）	—	—	A	A	②継続実施⇒関係団体による自主運営を検討
②文化団体の支援と指導者の育成	文化協会	B	B	A	A	③見直し⇒自立支援
	文化に関する表彰式	B	B	A	A	②継続実施⇒効率化を検討
	伝統文化親子教室（文化庁補助事業）	B	B	A	A	②継続実施

※展開：①拡大実施 ②継続実施 ③見直し（再構築・統合） ④廃止（移管含む） ⑤新規実施

基本方針 2 文化芸術資源を活用したまちづくりの推進

重点目標 2-2 将棋によるまちづくりの推進

< 現状と課題 >

将棋の普及と人材育成

当町の特色ある将棋によるまちづくりを推進するため、全国将棋祭りをはじめ、大山将棋記念館を拠点とした各種将棋大会や将棋教室を、年間を通して開催しています。また、日本古来の文化である将棋を通して、将棋の持つ教育的効果による子どもを中心とした人財育成に努めています。今後も、当町ならではの将棋事業を展開するための愛好者や指導者、将棋団体の育成・支援を進める必要があります。

おいらせ町将棋まちづくり実行委員会

当該組織において「おいらせ全国将棋祭り」をはじめとした、町の将棋事業の方針及び内容等を決定しておりますが、今後は、より将棋に関して専門的な知識を持つ委員を入れて、事業内容及び効果の検証をし、効率的な事業を展開するため、組織強化を図っていく必要があります。

おいらせ全国将棋祭り

女流棋士公式戦である「倉敷藤花戦おいらせ対局」、「大山十五世名人杯争奪将棋大会」、「子ども人間将棋」その他様々なイベントを開催しておりますが、内容を検証し、より効率的な集客・PRができるように、イベント内容を精査して開催する必要があります。

将棋大会、将棋教室

参加者数は年々増加傾向にあり、「将棋教室」は、通年で将棋を継続的に続ける場として、「将棋大会」は普段の練習の成果を発表する場として開催し、より一層の内容の充実を図り、今後とも子どもへの将棋による教育的効果を図っていく必要があります。

大山将棋記念館の運営

平成 30 年度から全館入場無料化したこともあり、来館者数は年々増加しています。記念館は、将棋教室や将棋大会でも使用されており、毎日将棋を指す常連客も増えています。しかし、将棋に特化した全国でも希少な施設であるにも関わらず、全国的な知名度は高いとは言えない状況であるため、もっと積極的に様々な方法でPRしていく必要があります。

こういった課題を解決しつつ記念館の運営を維持するため、今後は民間活力やノウハウを活用する指定管理者制度に移行することとしています。

< 重点施策（方向性） >

①将棋の普及と人材育成

当町の特色ある将棋によるまちづくりを推進するため、大山将棋記念館を拠点に町内外に情報発信を行い、将棋団体や指導者、愛好者との連携を強化し、子どもへの将棋の普及奨励・底辺拡大、人材育成に努めます。

重点施策	具体的事業	これまでの評価				今後の展開
		27	28	29	30	R2~6
①将棋の普及と人材育成	将棋まちづくり実行委員会	B	—	—	A	②継続実施
	全国将棋祭り	B	A	A	A	③見直し⇒再構築・統合（縮小または廃止を検討）
	各種将棋大会	B	A	A	A	②継続実施
	各種将棋教室	A	B	A	A	③見直し⇒指定管理者導入
	大山将棋記念館の管理運営	B	B	A	A	③見直し⇒指定管理者導入

※展開：①拡大実施 ②継続実施 ③見直し（再構築・統合） ④廃止（移管含む） ⑤新規実施

基本方針3 次代へ伝える文化財の保存・活用

重点目標3-1 文化財の保護と活用

< 現状と課題 >

文化財の保護・継承・活用

各種開発へ対応するため、引き続き埋蔵文化財包蔵地の周知を徹底していく必要があります。

史跡阿光坊古墳群・おいらせ阿光坊古墳館の管理運営

平成29年度に古墳群は史跡公園としての整備が完了しました。この文化的価値の高い資料を身近でみることができる史跡阿光坊古墳群や、おいらせ阿光坊古墳館を適切に管理し、多様な学習機会を提供するなど、住民との協働により文化財を活用していく必要があります。

史跡阿光坊古墳群・おいらせ阿光坊古墳館のPR

平成30年度は、古墳群のPRに向けて、町と阿光坊町内会、阿光坊古墳群保存会との協働により、「阿光坊古墳まつり」を実施したが、平成31年度からは、開催経費やスタッフの確保が困難なことから継続することができませんでした。また、現地講座や歴史講座などを開催し、町内外から多くの来館者を迎えています。来訪したことが無い町民も多数いるので、新たな体験学習メニューなどを開発しながら、情報発信する必要があります。

< 重点施策（方向性） >

①文化財の保護・保存

関係機関と連携しながら、文化財の計画的な調査・記録やパトロールなどにより、文化財の保護・保存に努めます。

②史跡等の管理・活用

史跡阿光坊古墳群やおいらせ阿光坊古墳館を適切に管理するとともに、町内外への情報発信を工夫しながら運営し、文化財の活用に努めます。

③住民との協働による文化財の活用

貴重な文化財に対する町民の理解と郷土愛を育むために、阿光坊古墳群保存会への支援をはじめ、地域住民との協働による史跡の整備・活用に努めます。

重点施策	具体的事業	これまでの評価				今後の展開
		27	28	29	30	R2~6
①文化財の保護・保存	文化財保護審議会	B	B	A	A	②継続実施
	文化財の管理・周辺整備	C	—	—	—	②継続実施
	文化財の計画的な調査・記録	B	B	A	A	②継続実施
	文化財パトロール	B	B	—	—	②継続実施
②史跡等の管理・活用	史跡阿光坊古墳群の管理・活用	B	A	A	A	②継続実施
	おいらせ阿光坊古墳館の管理運営	—	—	A	B	②継続実施
	文化財の公開・活用（新規）	B	B	A	A	②継続実施

③住民との協働による文化財の活用	阿光坊古墳群保存会の支援	B	B	A	A	②継続実施
	ボランティアガイドの養成・活用（新規）	B	B	A	A	②継続実施
	協働による史跡の保護・整備・活用（新規）	B	B	A	A	②継続実施

※展開：①拡大実施 ②継続実施 ③見直し（再構築・統合） ④廃止（移管含む） ⑤新規実施

基本方針3 次代へ伝える文化財の保存・活用

重点目標3-2 郷土芸能の保存と継承

< 現状と課題 >

郷土芸能活動

百石えんぶりや本村鶏舞、日ヶ久保虎舞をはじめとした郷土芸能が継承されていますが、指導者の高齢化や後継者不足が深刻化してきています。また、門付けをしても活動資金が集まらず、子供たちが増えることによって、さらに資金難に陥っています。この郷土芸能をしっかりと継承していくために、郷土芸能団体を支援していく必要があります。

子どもえんぶり・子ども鶏舞教室

町内全小中学校への募集や新聞、テレビ等マスコミによる周知により、参加者は増加傾向にあります。今後も興味を持ってもらうために継続してPRする必要があります。

< 重点施策（方向性） >

①郷土芸能の継承と後継者育成

郷土芸能団体と連携しながら、子どもの郷土芸能活動を推進し、指導者や後継者の育成を支援することで郷土芸能を後世に継承します。

重点施策	具体的事業	これまでの評価				今後の展開
		27	28	29	30	R2~6
①郷土芸能の継承と後継者育成	郷土芸能団体の支援（新規）	B	B	A	A	②継続実施
	子どもの郷土芸能活動の推進（えんぶり・鶏舞）（新規）	B	B	A	A	②継続実施

※展開：①拡大実施 ②継続実施 ③見直し（再構築・統合） ④廃止（移管含む） ⑤新規実施

令和元年度の事業の様子



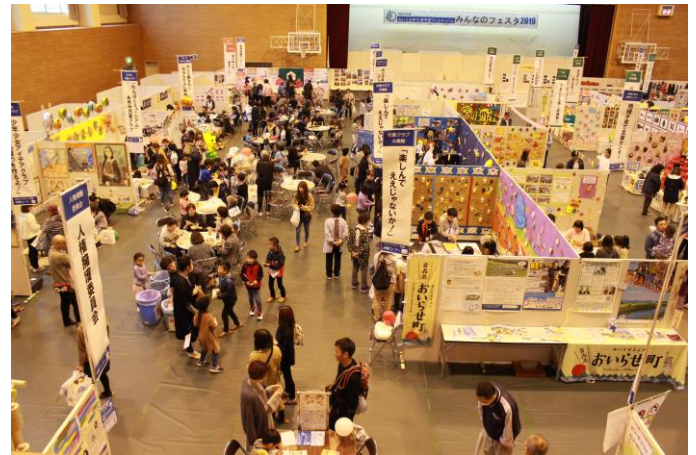
おいらせ全国将棋祭り
書道パフォーマンス



図書館まつり
おはなし会



子どもフェスティバル
よさこいソーラン



生涯学習フェスティバル
展示ブース



新年かきぞめ大会
参加者数115人



成人式
参加者数237人